租税教育実践レポート

私たちの生活と税の役割

登米市立佐沼中学校講師 3学年 上村 一帆

実施年月日：令和7年1月17日 39名

1 実践計画・指導のねらい

1 時間目に国税庁の資料を用いることで、税に関する関心を高めていき、私たちが納める税金の種類や仕組みを理解し、普段の生活は税金がなければ成り立たないことに気づく。

その後に登米市の財政に目を向けさせることで、市が行っている対策や税の使い方について理解するとともに、登米市の課題についても考える。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、生徒たちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・私たちの生活と税の役割	○ 税金を納めなかったら、どのようなことが起こるか考えよう。 ● 学校で授業料を払えないと、退学させられる。 ● 学校に行ける家庭と行けない家庭で格差が拡大する。 ● 警察を利用するのにお金がかかり、治安が悪化する。 ● 道路の利用が全て有料になる。 □使用教材名 ・国税庁ホームページ記載のワークシート 「私たちの暮らしと政府の経済活動」
2	・私たちの生活と財政	○ 税金の公平性は保たれているのか考えよう。 ● 所得税が全体の15%を占めており、高所得者は不公平に感じているのではないかと感じる (不公平) ● 消費税は年々増税されており、高所得者が優遇されているのではないかと感じる (不公平) ● 所得税と消費税で税の仕組みが違うため、公平性は保たれていると感じる (公平) ● 税金には所得の再分配の効果があると知り、公平であると感じる (公平) □使用教材名 ・教科書「新しい公民」 ・タブレット：ロイロノート
3	・財政の役割と課題	○ 登米市の財政について考えよう。 ● 登米市は就労者を増やすための取り組みを行っている。 ● 今後人口が減少したら、民生費にかかるお金がさらに多くなるのではないかと感じる (不公平)、対策を考えたい。 □使用教材名 ・登米市の予算とまちづくり ・タブレット：ロイロノート

【指導のポイント】<1時間目>

税金がなかったら、どのようなことが起こるのか、グループで話し合い、クラス全体で共有を行った。

今後の授業への良い動機付けを行えた。

【指導のポイント】<2時間目>

さまざまな税金について、生徒自身にまとめさせた。逆進性や累進課税について説明を行った。

一般会計予算の割合等を比較することで、生徒の考えをひきだすことができた。

【指導のポイント】<3時間目>

「登米市のまちづくり」から市の財政状況を班でまとめ、課題を考えた。
※班で意見をまとめ、その後に班を横断して意見を交換した。

班によっては課題の対策を考えるなど学びをふかめることができた。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

◎ 税金をより身近に感じる生徒が多くなり、税金の必要性を感じるようになった。

◆ 「登米市の予算とまちづくり」の資料だけでは、登米市の財政の特徴をつかむことが難しかった。
今後に向けて、別の地区の資料を用意するなどの工夫が考えられる。

◆ 税金の種類や公平性については、資料からの読み取りや考察の時間を確保することが必要だと感じた。